

名古屋市「大学へのエシカル消費の普及・啓発事業委託」

学生主体のSDGsに関する 標準化教育

中部大学ESDエコマネーチーム（伊藤佳世准教授）



令和7年2月
学校法人 中部大学

1. 中部大学ESDエコマネーチームとは？

SDGsや標準化に関心のある学生が所属
所属メンバー 66名



標準化
(ルール)

社会課題
解決

人材育成



- 持続可能な開発を担う
→環境・社会・経済のサステナビリティの重要性を理解
- 社会課題解決×標準を使う人から作る人になる！
→学生主体の標準化教育を推進しながらESD活動を実践
- 「未来を創る人づくり」
→産学官民連携での標準化教育実践

2. 事業概要・目的

背景・課題

SDGs2030まで残り5年

持続可能な社会への移行

PDCAサイクルに基づく

継続的取り組みが不可欠

目的

持続可能な開発を担う

人材育成

(標準化×SDGs)

エシカル消費啓発

(中高生・消費者・産業界)

知識・スキル

2025年度の取り組み

SDGs・スマート技術・標準化

学生主体の標準化教育

正課(標準を使う・作る・教える)

+課外活動(応用編)

3-1. 教材開発

地球を守る17枚のカード

~17Cards to save the Earth~

基準規格 ISO UNDP PAS 53002 (SDGs PDCA推進)

学習目標

- ① SDGs達成の方法・仕組みの理解
- ② SDGs関連技術を活用した課題解決
- ③ 未来を見据えた自分事としての行動促進

対象 企業・行政 / 消費者 / 住民 / 小中高大学生

カード構成

要求事項カード

ISO規格の内容・クイズ

投資・SDGsカード

社会制度・技術・クイズ

ハプニングカード

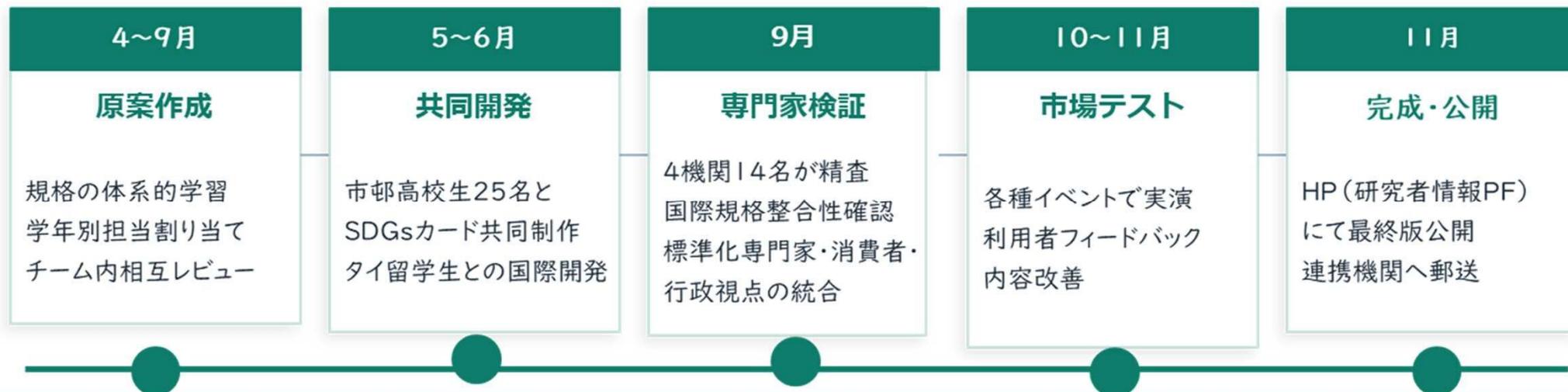
取り組みのリスク

イベントカード

取り組みの機会

「世界を救え2」改訂版も同年度に公開

3-2. 教材開発プロセス(2025年度)



主な共同開発パートナー

-  市邨高校生25名(投資・SDGsカード共同制作)
-  タイ・モンクット王工科大学留学生6名(国際視点の統合)
-  4専門家機関14名(NACS東京・NACS中部・経産省・日本規格協会)



3-3. 専門家連携

4機関

連携専門家機関

14名

専門家人数

3視点

消費者・産業界・行政

9月2日 ZOOM

NACS東京

消費者視点から国際規格の整合性とカード内容を精査

9月9日 ZOOM

経済産業省

SDGs標準化戦略・スマート技術動向を教材内容に反映

9月9日 ZOOM

日本規格協会

規格用語の妥当性・最新の国際標準化動向を確認・改善

9月16日 対面

NACS中部

消費者視点の追加内容・ルール改善についてコメント

教材の専門性・信頼性・汎用性が大幅向上 — 国際規格の整合性を専門家が確認済み

3-4. 学生による授業支援（中高大連携）

3-4-1

市邨高校との連携

📅 5月8日～6月26日（計6回）

毎週木曜 13:00～15:00、
対面・オンライン
市川雅歳教諭ゼミ生25名

投資・SDGsカードを共同制作
国際規格探し
→クイズ・デザイン制作まで担当

25名が主体的に国際規格を調査・教材に組み込み

3-4-2

タイ・モンクット王工科大学

📅 5月7日～21日

交換留学生6名・教職員3名来日
SDGs17項目の関連規格を共に
調査・整理
帰国後も国際部として活動継続
スポーツを通じた多文化理解の推
進（野球交流等）も実施

教材の他国展開可能性を検討・国際部設置

3-4-3

春日丘中学校との連携

📅 7月9日～9月20日（計8回・20時間）

講師 野球部員中心の学生17名
「きみもあすからSDGs博士！」
26名の中学生に探究学習を実施
啓明祭（文化祭）での発表を全面
支援

啓明祭来場者 867名（新記録達成）

3-5. 世界を守る17枚のカード

自分が会社の社長となりSDGs達成まで残り5年で何をするのか(できるのか)を考えるカードゲーム

1 SDGs 

SDGs: 持続可能な開発 目標

環境 経済 社会の分野でそれぞれ重要なSDGsはどれですか?



要求事項カード

 消費者の脆弱性 

脆弱性: 個人的、状況的、市場環境要因の存在により、サービスプロバイダーとのやり取りの中で、個人が不利な立場に置かれたり、不利益を被るリスクがある状態

消費者の不利益を防ぐために何をしますか?

1 情報格差の是正
2 消費者志向経営
3 その他

内容: 指針を定めている
委員会: ISO/PC 311
規格: ISO 22458



経済 

投資・SDGsカード

 買い物の利便性向上 

IoTにより買い物の利便性が向上した。

SDGs 9番の項目が5%上昇

経済 

イベントカード

 買い物弱者 

日常の買い物に困難を抱える人に対するサービスが提供できてない。

SDGs 9番の項目が5%減少

経済 

ハプニングカード




地球を守る17枚のカード
17 cards to save the Earth

3-6. 世界を守る17枚のカード(副教材)



地球を守る17枚のカード
17 cards to save the Earth



地域版

地球を守る17枚のカード

17 cards to save the Earth



・パンフレット:詳細版
世界を守る17枚のカードの解説書

・パンフレット:地域版
チームの活動内容を記したもの

・ワークシート
お家で学ぶの支援

3-7. イベント出展の実績

16,929

総参加者数
(延べ人数)

16

イベント・授業
実施回数

12,465

エコプロ2025
3日間体験者数

867

啓明祭
来場者数(新記録)

なごやみらいフェスティバル	4月26日	448名
共同開発・タイ連携	5月	9名
高大連携(市邨高校)	5~6月	25名
愛知県庁研修	6月13・16日	572名
環境マネジメント全国大会	6月28日	30名
中大連携(春日丘中学校)	7~9月	26名
地球を愛する学園祭	8月1~3日	677名
日本工学教育協会	8月28日	28名
専門家連携	9月2・9・16日	14名
中部大学フェア	9月12日	51名

環境デーなごや2025	9月13日	232名
SDGs AICHI EXPO	10月3~4日	245名
Let'sエコアクションin AICHI	10月19日	566名
大学院向け授業	10~11月	28名
第15回ESD・SDGs研究発表	11月12日	30名
名古屋市消費生活フェア	11月15日	1,227名
標準化教室(大学生向け)	11~12月	198名
エコプロ2025	12月10~12日	12,465名
SDGs学生サミット	2月7日	52名
社会人基礎カグランプリ	2月15日	6名

3-8. イベント出展の様子



4. 成果総括

標準化教室 実施回数	16回
標準化教室 総参加者数	16,929名
連携専門家機関	4機関 (NACS東京・NACS中部・経産省・日本規格協会)
連携学校	2校 (春日丘中学校・市邨高校) + タイ大学
開発・改訂教材	「地球を守る17枚のカード」(新規) 「世界を救え2」(改訂)
広報物	パンフレット(詳細版・地域版)、ポスター、プレスリリース(日英)、ワークシート
学会発表	日本工学教育協会年次大会(京都大学)、論文採択



受賞 第15回中部大学ESD・SDGs研究・活動発表 学長賞 / 社会人基礎カグランプリ中部地区大会 最優秀賞

5. 課題と次年度計画(2026年度)

2025年度の課題

- 次世代への継続的な人材育成の仕組み整備
- 公開・出展物の品質管理体制の構築
(多重チェック体制による誤表記防止)
- 連携校・専門家機関との継続的な連携体制の維持・発展

2026年度の取り組み方針

新教材開発 JIS Q 42001を活用したAI×情報に関する標準化教材を新規開発
標準化教室の継続 新教材を用いた標準化教室の開催と中高大連携を継続
品質管理強化 教材の品質管理プロセスを整備し、出展前の確認体制を強化
青少年支援 青少年支援育成プロジェクトの企画・運営・実施



伊藤佳世研究室



教材ダウンロードは
こちらから



Instagram



中部大学ESDエコマネー
チーム
Instagram



中部大学ESDエコマネーチーム
フェイスブック



中部大学ESDエコマネー
チームX (旧Twitter)

